

### (1) リンゴ斑点落葉病

新梢葉での発生は場割合は平年より高いものの、発生程度は低い状況でした（図1）。

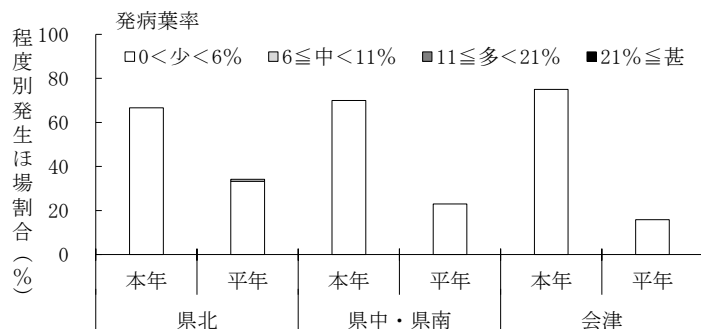


図1 リンゴ斑点落葉病の発生状況

### (2) リンゴ褐斑病

新梢葉及び果そう葉での発生は確認されませんでした。昨年秋期の発生量が平年より多かったことから、越冬量は多かったと推察されます（図2）。

7月は二次感染期です。薬剤散布は、降雨前の実施を基本とし、散布間隔があきすぎないように実施しましょう。

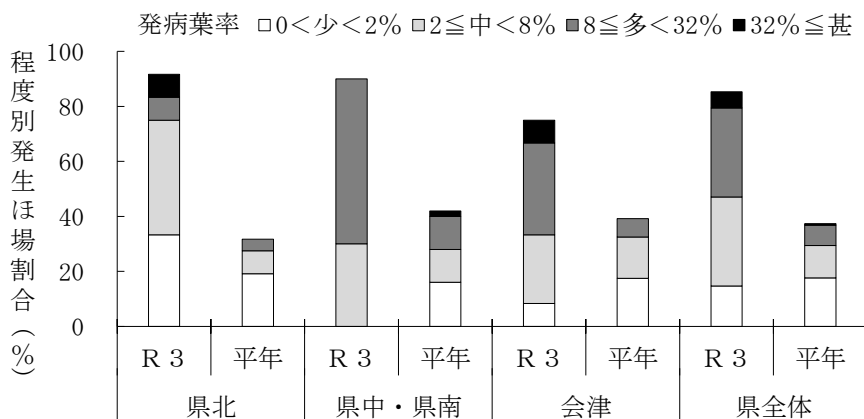


図2 リンゴ褐斑病の発生状況（令和3年10月）

### (3) リンゴ黒星病

発生は場割合は、会津では平年よりやや高い状況でした（図3、4）。中通りでは、発生は確認されませんでした。

発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。薬剤散布は散布ムラがないように丁寧に実施しましょう。

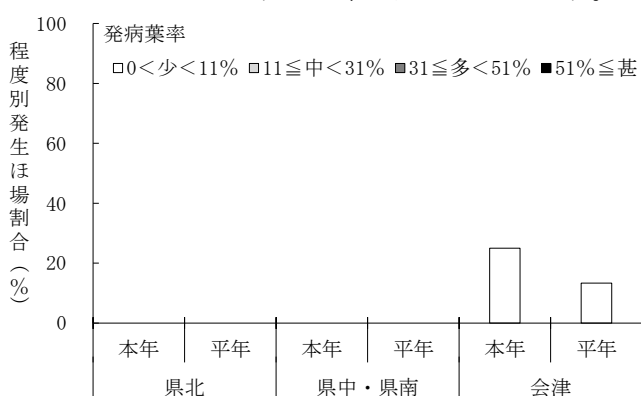


図3 リンゴ黒星病の発生状況（新梢葉）

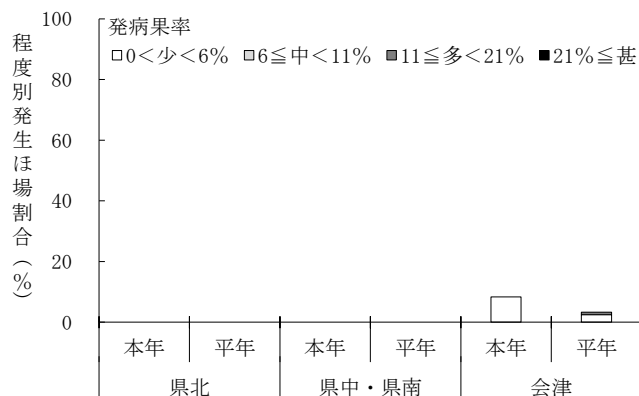


図4 リンゴ黒星病の発病状況（果実）

#### (4) キンモンホソガ

新梢葉での被害は、確認されませんでした。

#### (5) アブラムシ類

新梢寄生ほ場割合は、平年並でした（図5）。

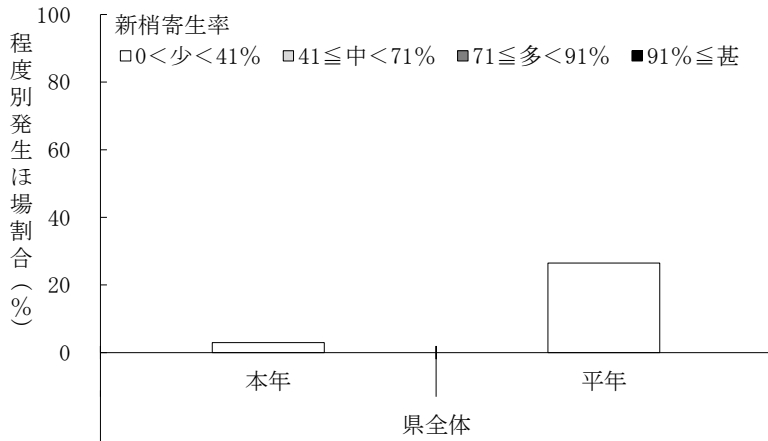


図5 アブラムシ類の新梢葉寄生状況

#### (6) ハダニ類

新梢寄生は、平年並の状況でした（図6）。

要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

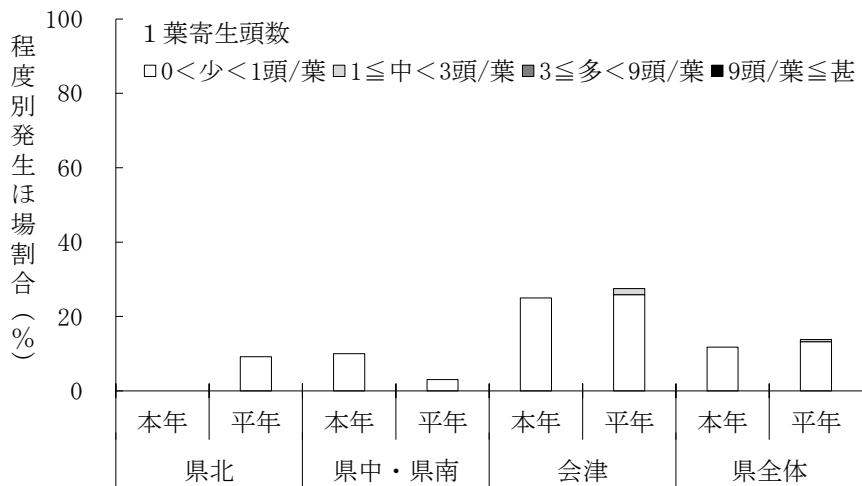


図6 ハダニ類の新梢葉寄生状況